

地域イベントを通じた公園魅力の顕在化に関する研究 — 泉北をつむぐまちとわたしプロジェクトを事例として —



緑地計画学研究グループ

井手上祐士

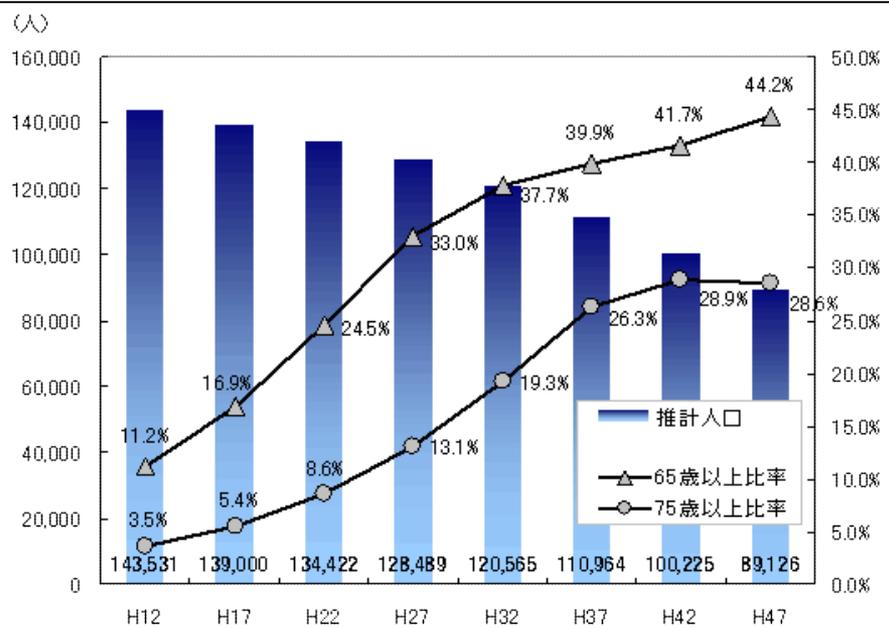
第1章 研究の背景と目的

研究背景

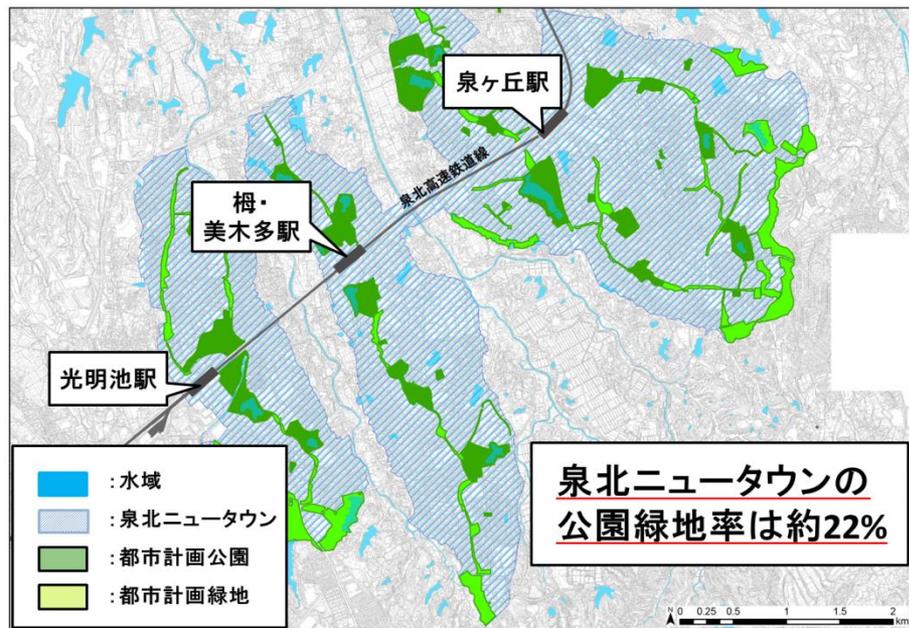
- 泉北ニュータウンは建設後50年を迎える
- 人口減少や居住者の高齢化が課題となっている
- 充実した公園緑地を活用したニュータウン再生が課題である

研究目的

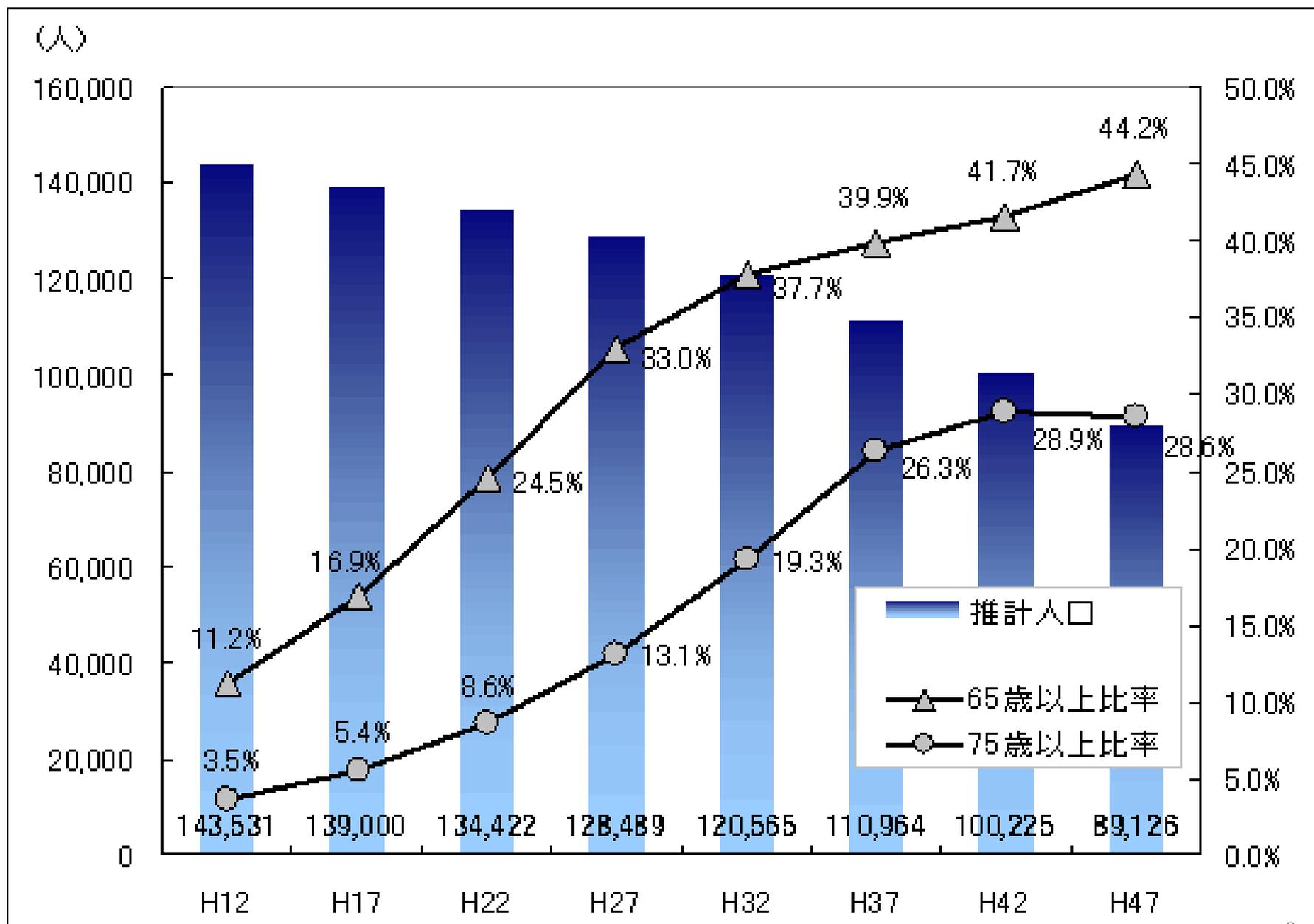
公園の利用経験や公園での地域イベントへの参加を通じて、居住魅力の大きな要素となる公園魅力の顕在化が図られるかどうかを探った



(出典: 堺市ホームページ「泉北ニュータウンの現況と問題」)

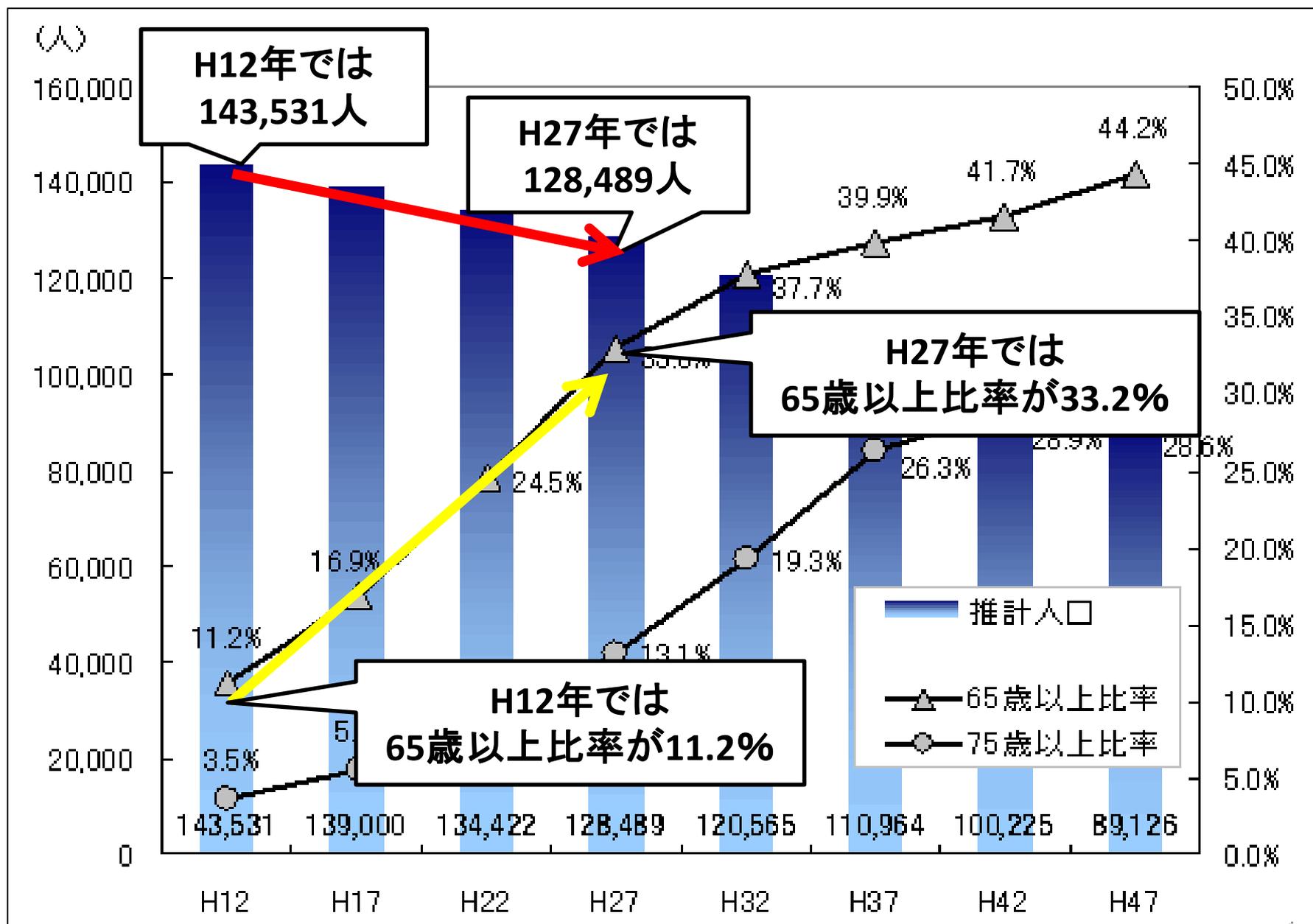


泉北ニュータウンの将来人口予測図



(出典：堺市ホームページ「泉北ニュータウンの現況と問題」)

泉北ニュータウンの将来人口予測図



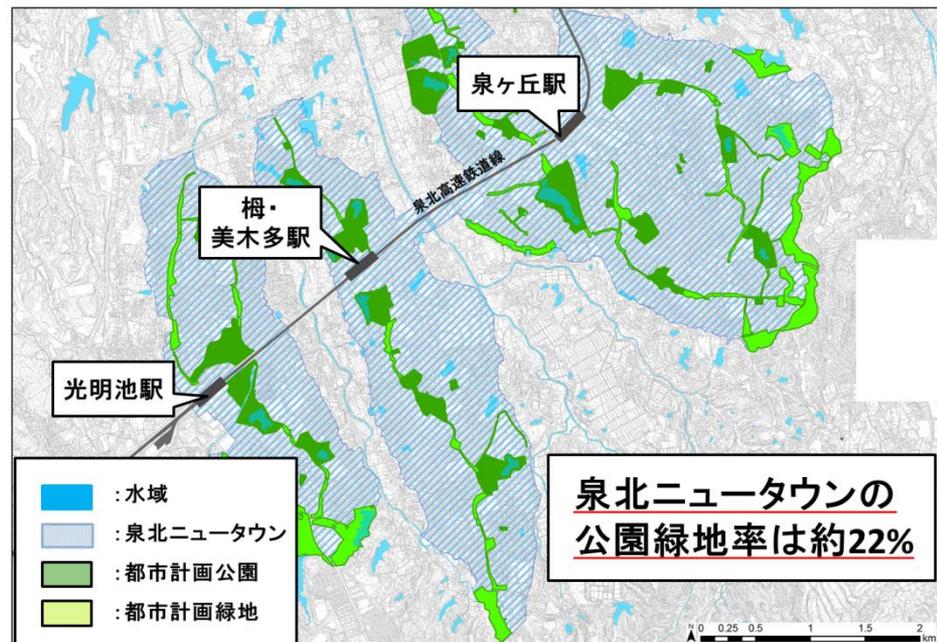
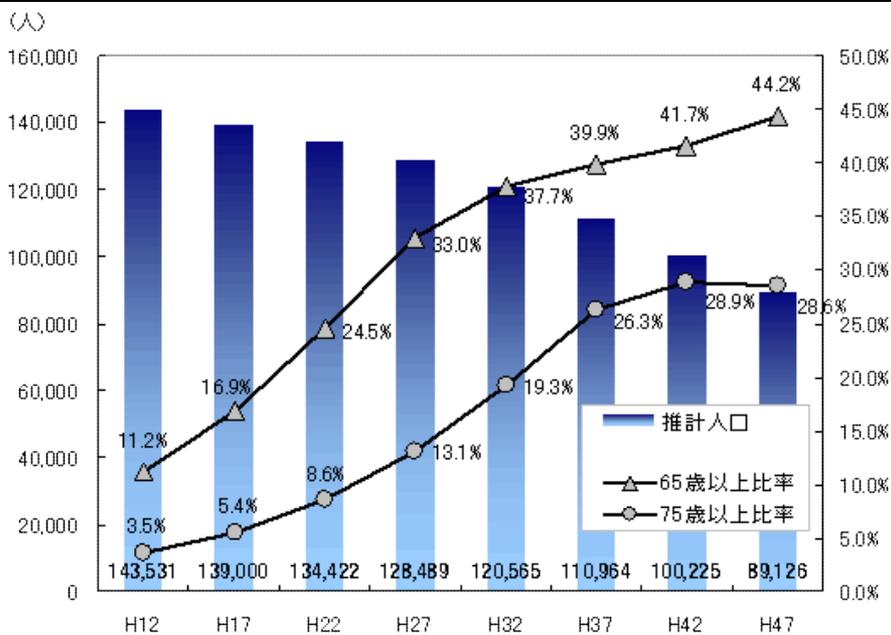
第1章 研究の背景と目的

研究背景

- 泉北ニュータウンは建設後50年を迎える
- 人口減少や居住者の高齢化が課題となっている
- 充実した公園緑地を活用したニュータウン再生が課題である

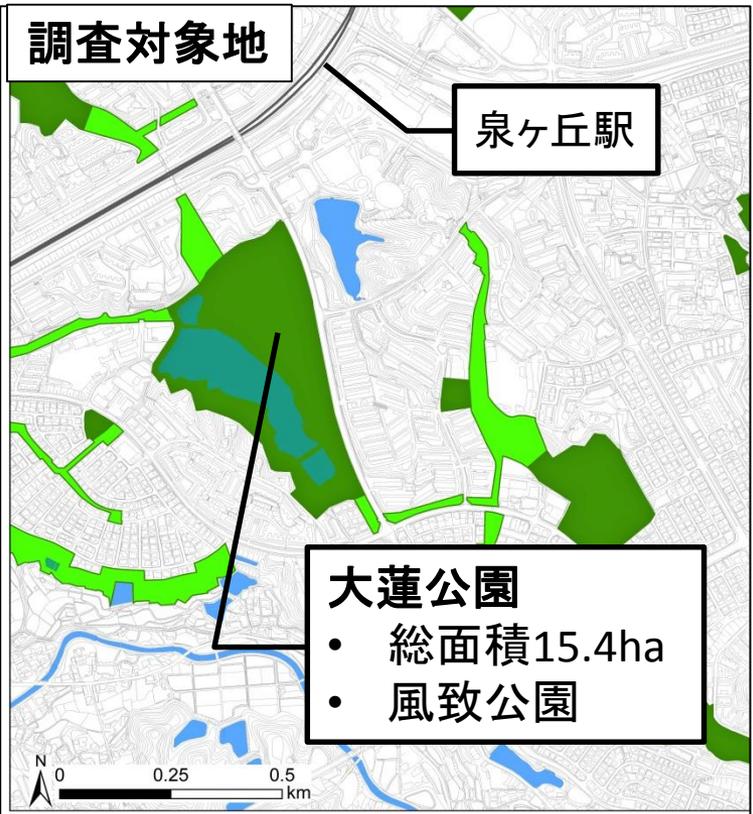
研究目的

公園の利用経験や公園での地域イベントへの参加を通じて、居住魅力の大きな要素となる公園魅力の顕在化が図られるかどうかを探った



(出典: 堺市ホームページ「泉北ニュータウンの現況と問題」)

調査対象(調査対象地;大蓮公園、泉北をつむぐまちとわたしプロジェクト)



大蓮公園で行われた地域イベント

- 2015年:3月22日「まちの住みかを楽しもう」
:12月5日「だんぢりkitchen」
- 2016年:3月6日「まちの住みかを楽しもう」
:7月3日「緑道ピクニックVol.3」
:8月20日「Neighborhood Glamping」
:9月4日「緑道ピクニックVol.4」
:10月2日「緑道ピクニックVol.5」
:10月30日「まちの住みかを楽しもう」

泉北をつむぐまちとわたしプロジェクト

- 堺市がメンバーとなる地域住民を募集
- 泉北ニュータウンを魅力的にしよう
- まちを自分の家の延長のように楽しむ
- 地域住民が主体となって企画・運営



(出典:泉北をつむぐまちとわたしプロジェクト Facebook)

第2章 イベント参加者へのアンケート調査

■ 調査方法

- 日時 : 2016年10月30日
- 対象 : 当日の「まちの住みかを楽しもう」への参加者
- 方法 : 直接配布郵送回収方式
- 有効回答数 : 166票(39.7%)
- 設問内容
 - ◆ 属性
性別、年齢層、居住地
 - ◆ イベント参加状況
イベント参加人数
同伴者との関係
過去のイベントへの参加経験
 - ◆ 効果
公園の魅力内容
公園が居住魅力に与える効果
公園の現在の利用状況
公園の利用頻度の変化

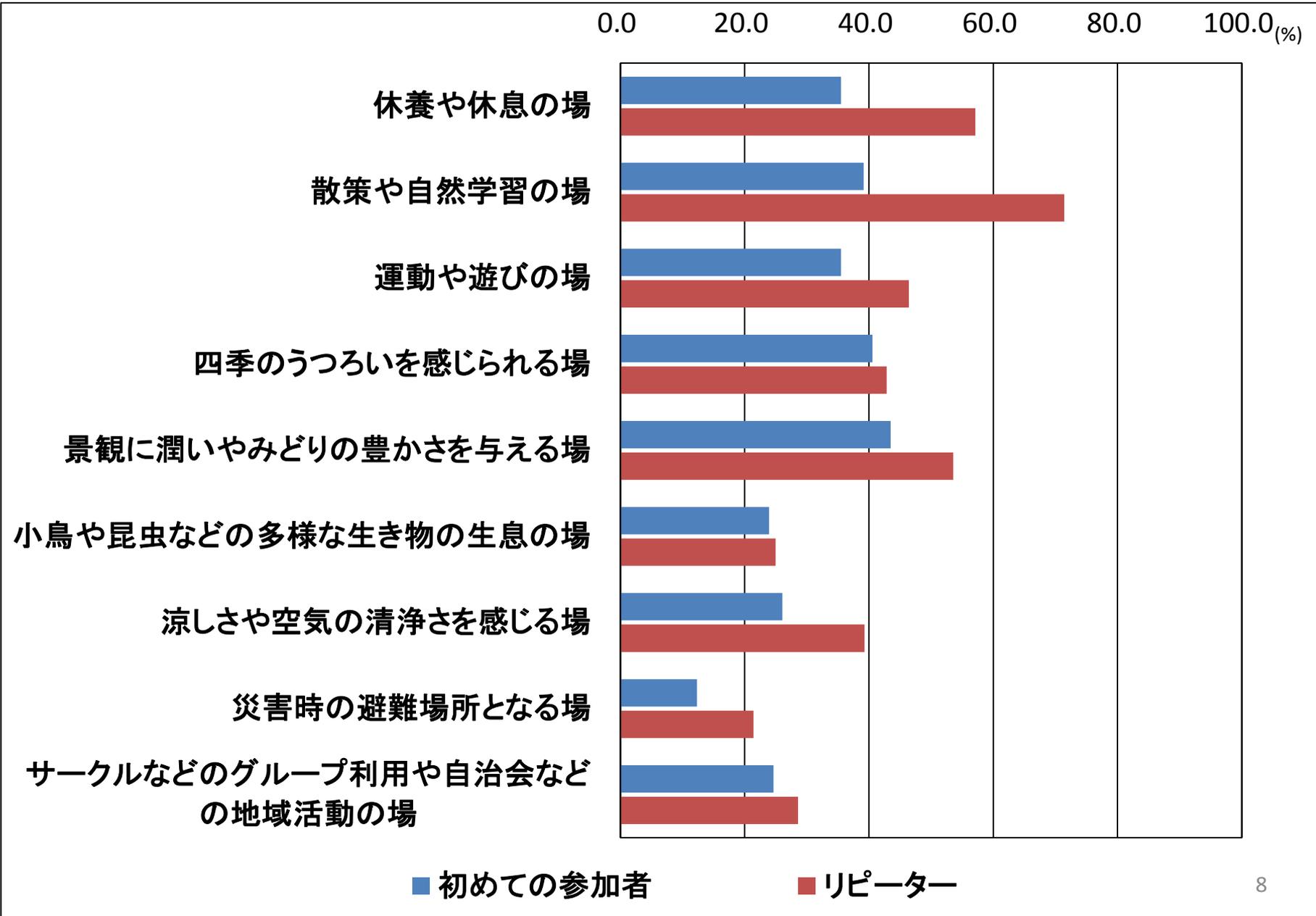
■ 調査目的

地域イベントへの参加を通じての公園利用の活性化や、公園魅力の顕在化が図られるかどうかを探るため

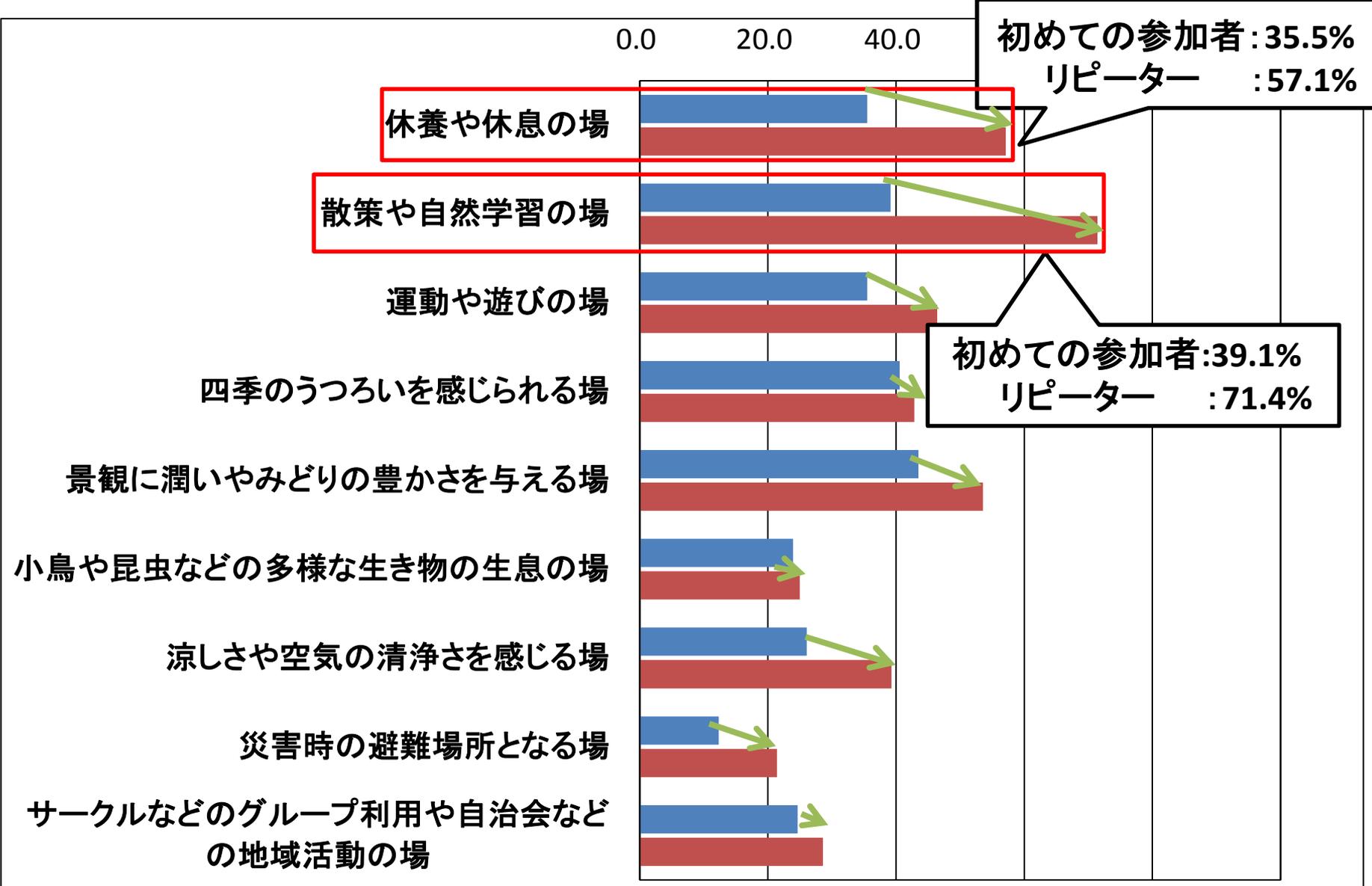
■ 解析方法

- 単純集計・・・全ての項目
- クロス集計
 - ◆ 地域イベントへの初めての参加者とリピーターとの比較
 - ・公園の魅力内容
 - ・公園が居住魅力に与える効果
 - ・公園の利用頻度の変化

第2章 公園の魅力内容(初めての参加者とリピーターとの比較)

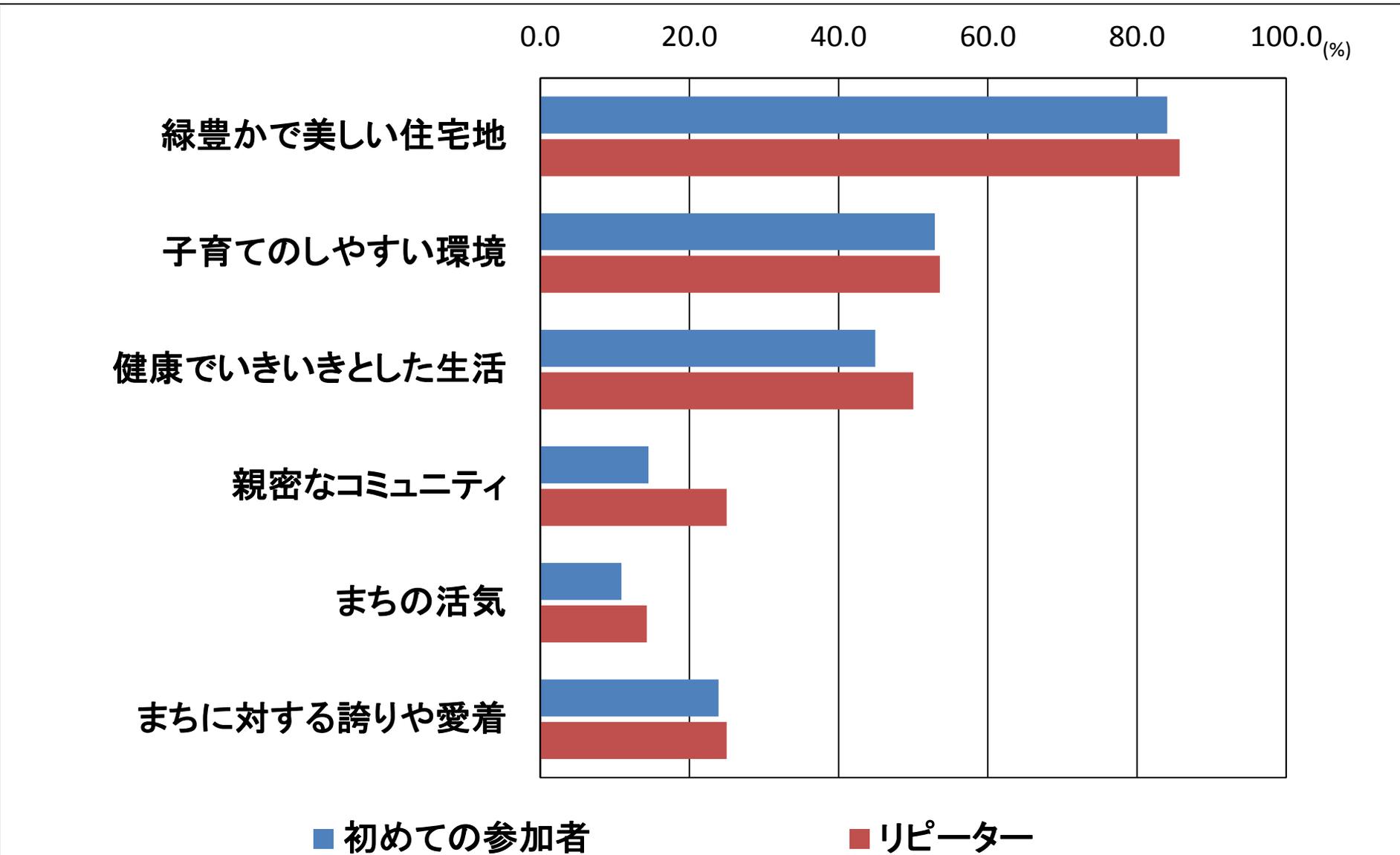


第2章 公園の魅力内容(初めての参加者とリピーターとの比較)

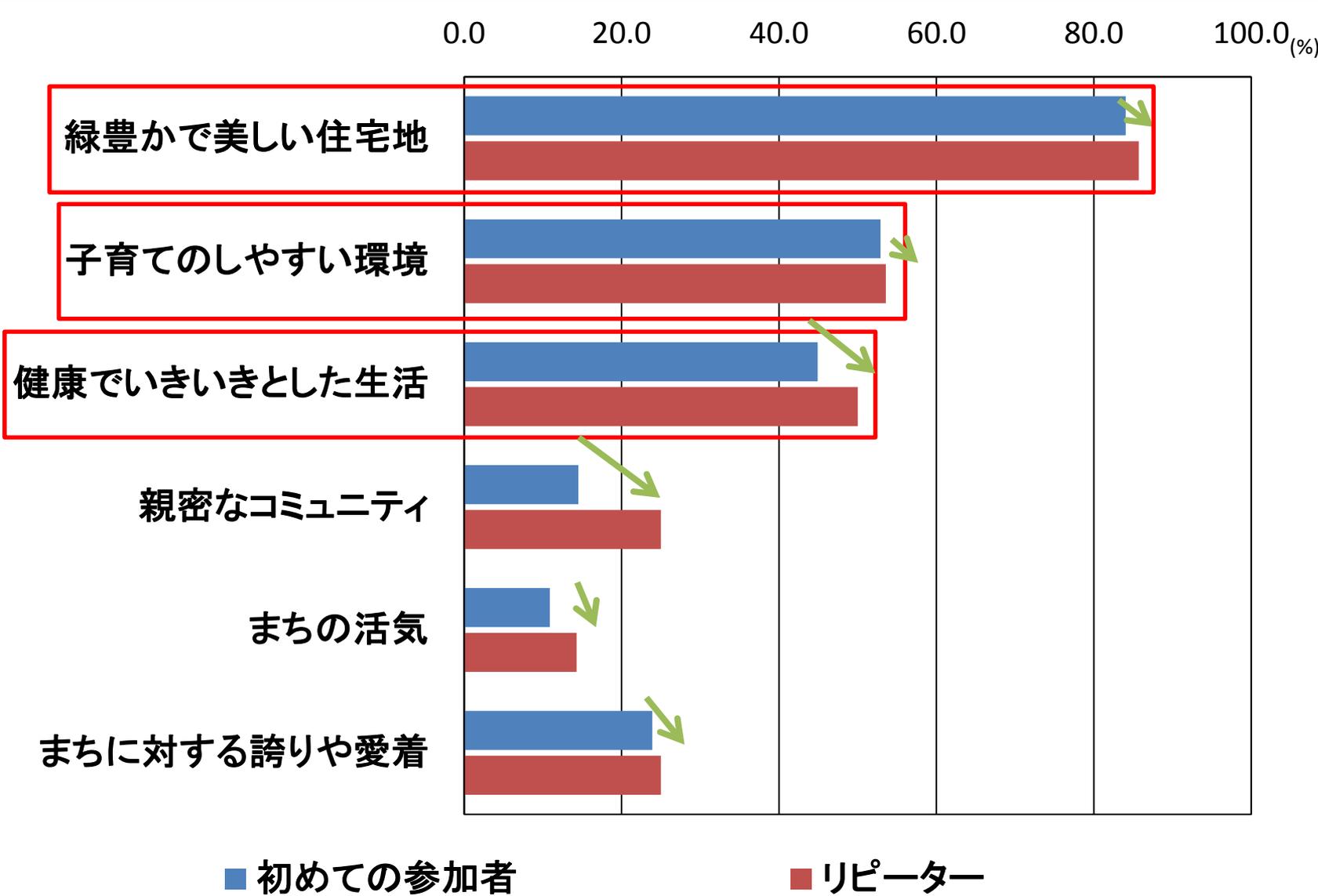


■ 初めての参加者 ■ リピーター

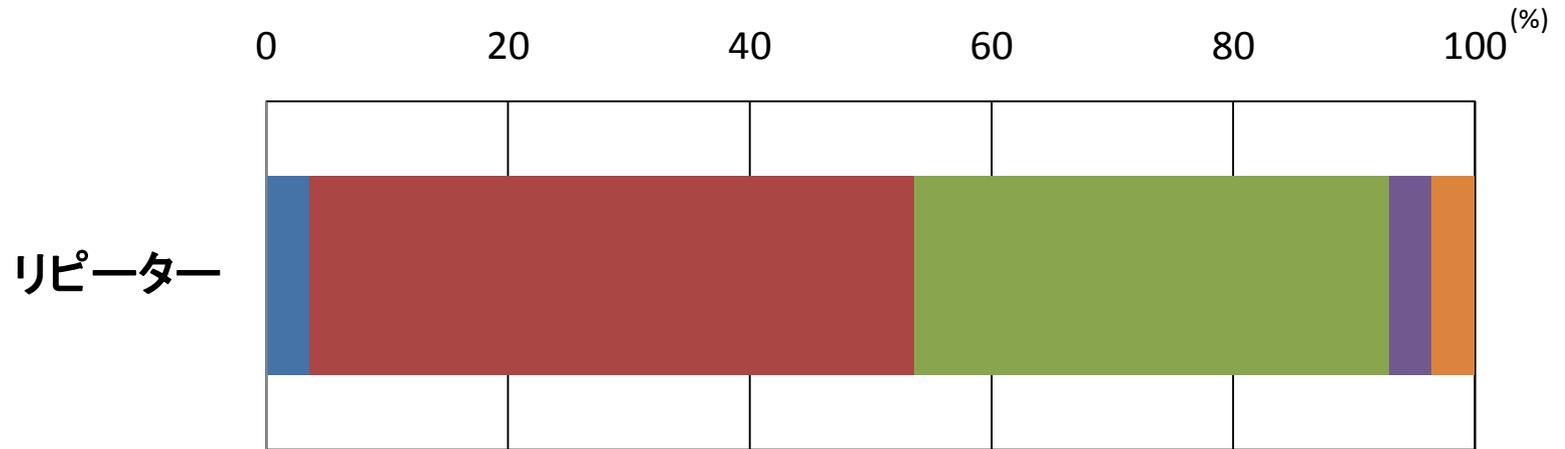
第2章 公園が居住魅力に与える効果(初めての参加者と リピーターとの比較)



第2章 公園が居住魅力に与える効果(初めての参加者と リピーターとの比較)



第2章 リピーターの公園の利用頻度の変化



■ かなり増加した

■ やや増加した

■ 以前と変わらない

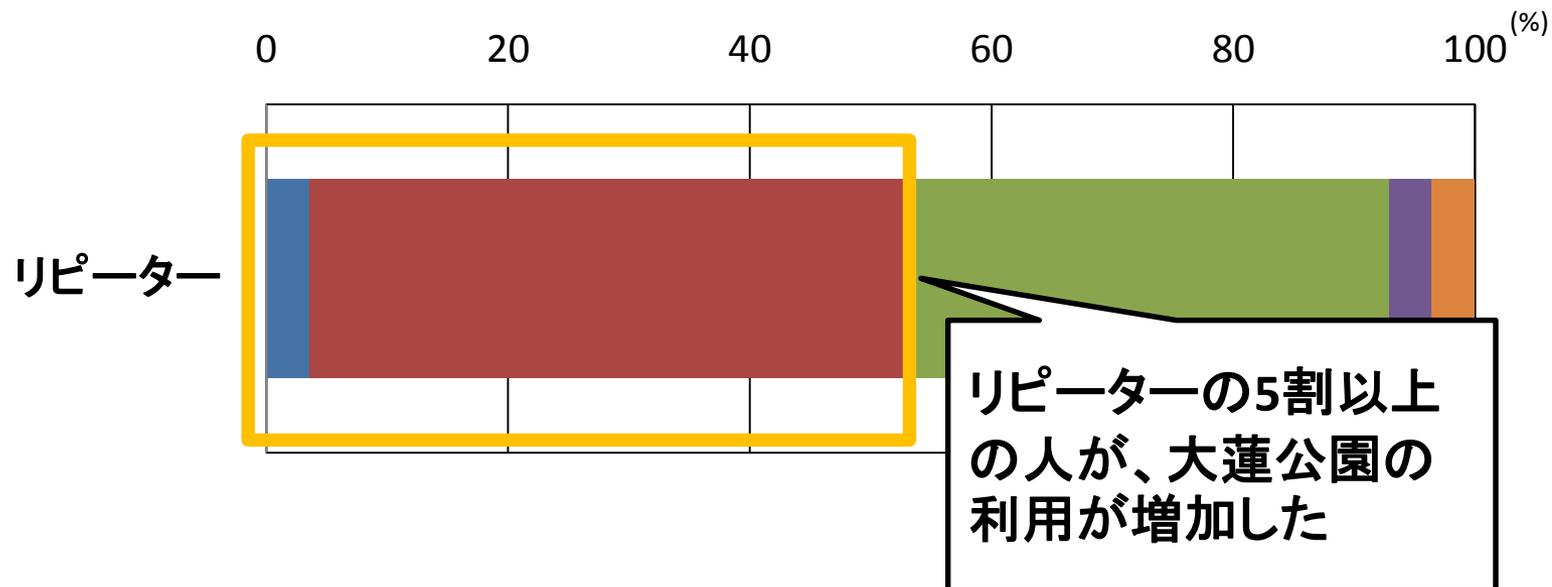
■ やや減少した

■ かなり減少した

■ 利用しない

■ 無回答

第2章 リピーターの公園の利用頻度の変化



■ かなり増加した

■ やや増加した

■ 以前と変わらない

■ やや減少した

■ かなり減少した

■ 利用しない

■ 無回答

第3章 泉ヶ丘地区居住者へのアンケート調査

■ 調査方法

- 日時 : 2016年11月中旬
- 対象 : 泉ヶ丘地区居住者
- 方法 : 郵送留置方式
- 有効回答数 : 477票(23.9%)
- 設問内容
 - ◆ 属性
性別、年齢層、居住地、
居住年数、イベントへの参加経験
 - ◆ 公園利用状況
公園の現在の利用状況
公園の入居当初の利用状況
 - ◆ 効果
公園の魅力内容
公園が居住魅力に与える効果



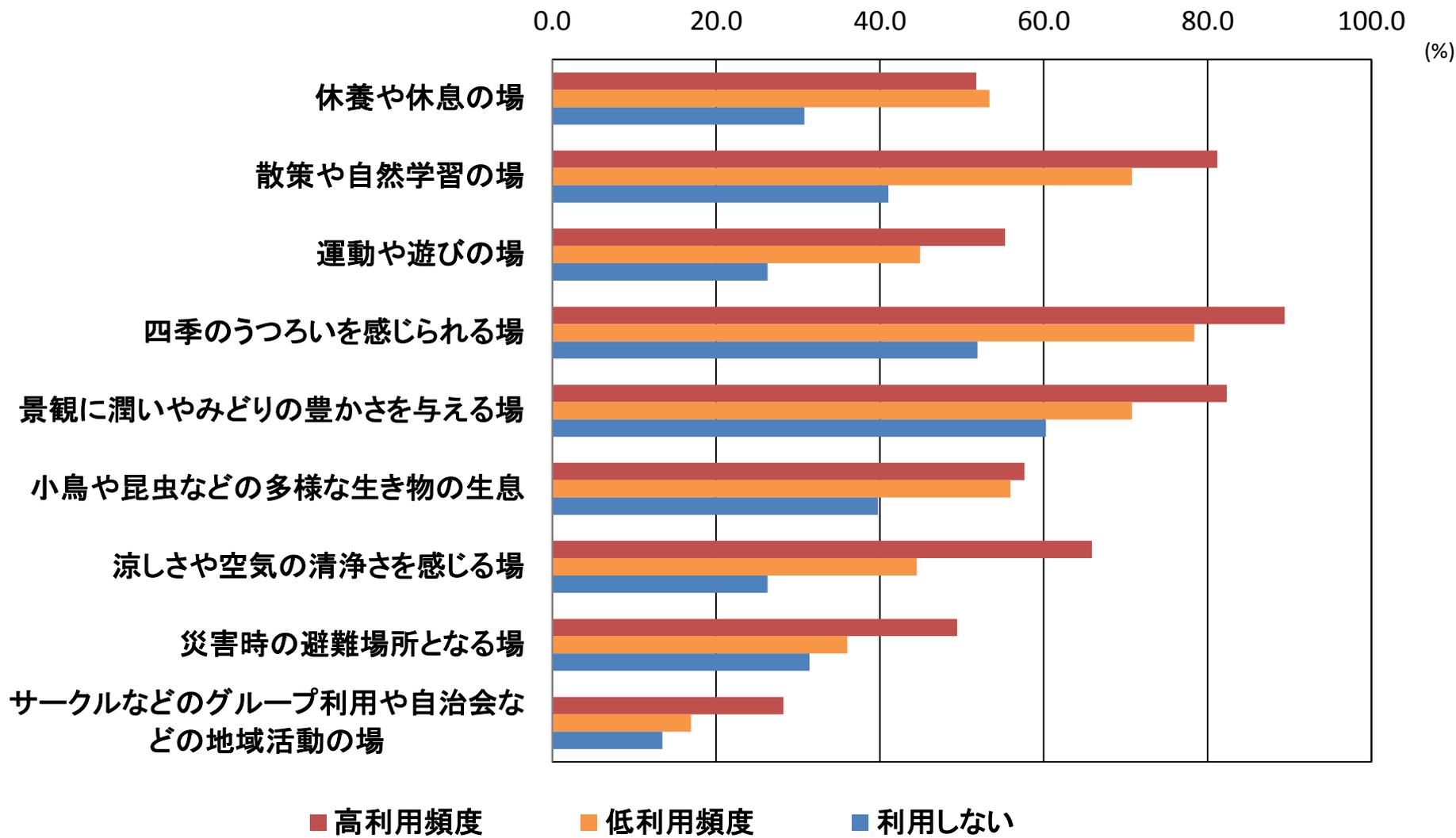
■ 調査目的

日常の公園利用の経験によって公園魅力の顕在化が図られるかどうかを探るため

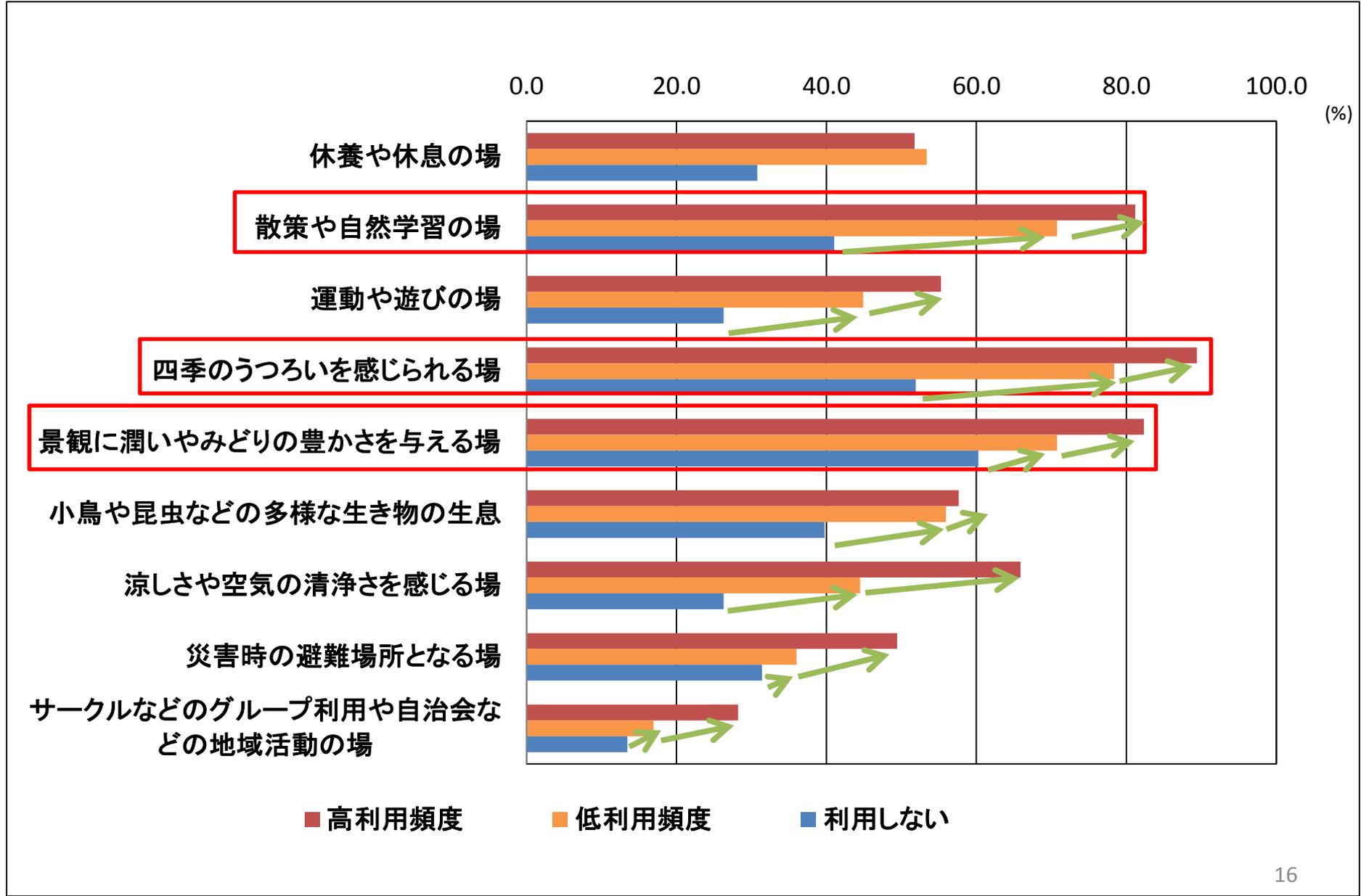
■ 解析方法

- 単純集計・・・全ての項目
- クロス集計
 - ◆ 公園の現在の利用頻度別の比較
 - ・公園の魅力内容
 - ・公園が居住魅力に与える効果
 - ◆ 公園の入居当初から現在までの利用経験別の比較
 - ・公園の魅力内容
 - ・公園が居住魅力に与える効果

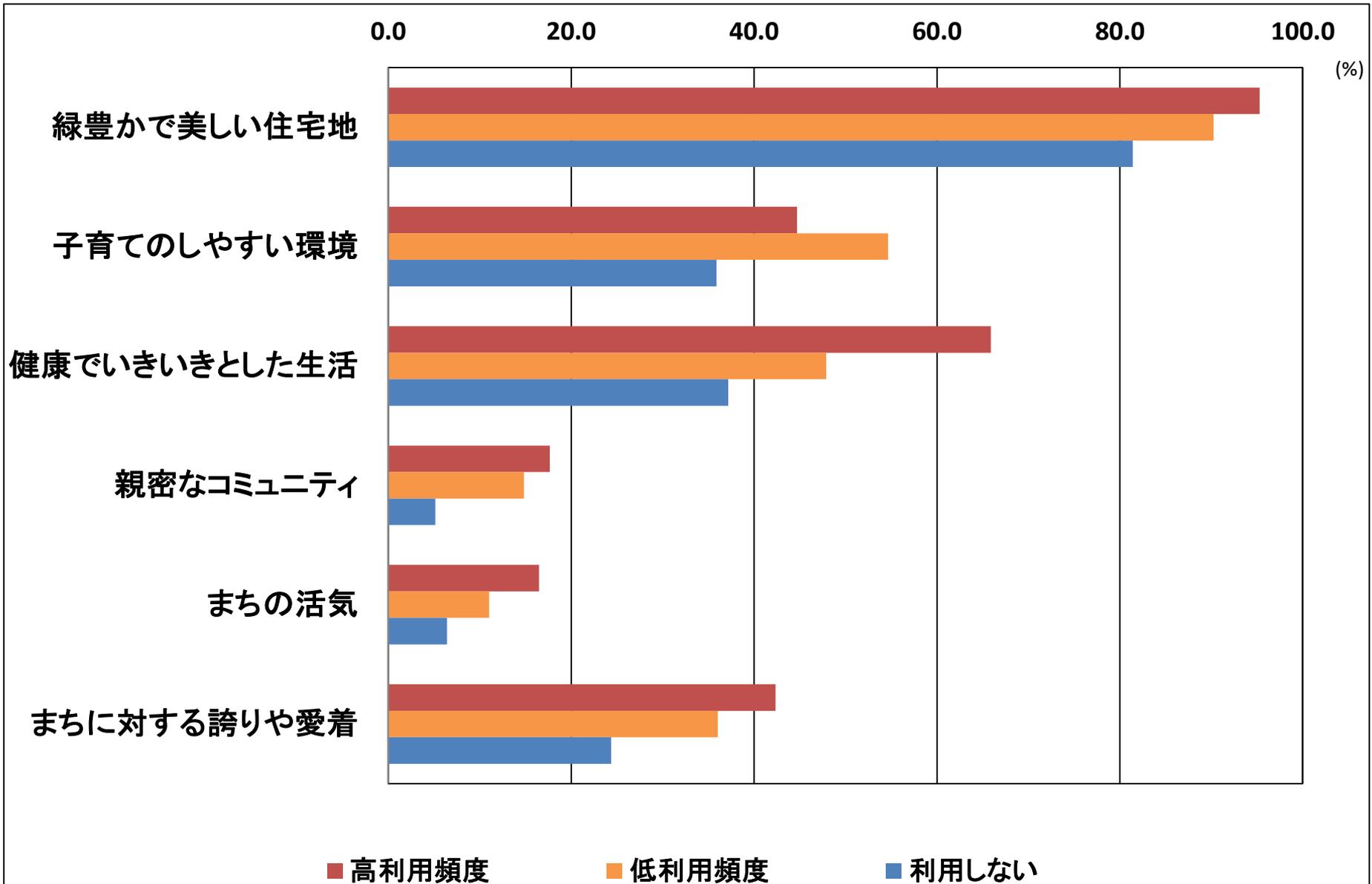
第3章 公園の魅力内容(現在の公園の利用頻度別比較)



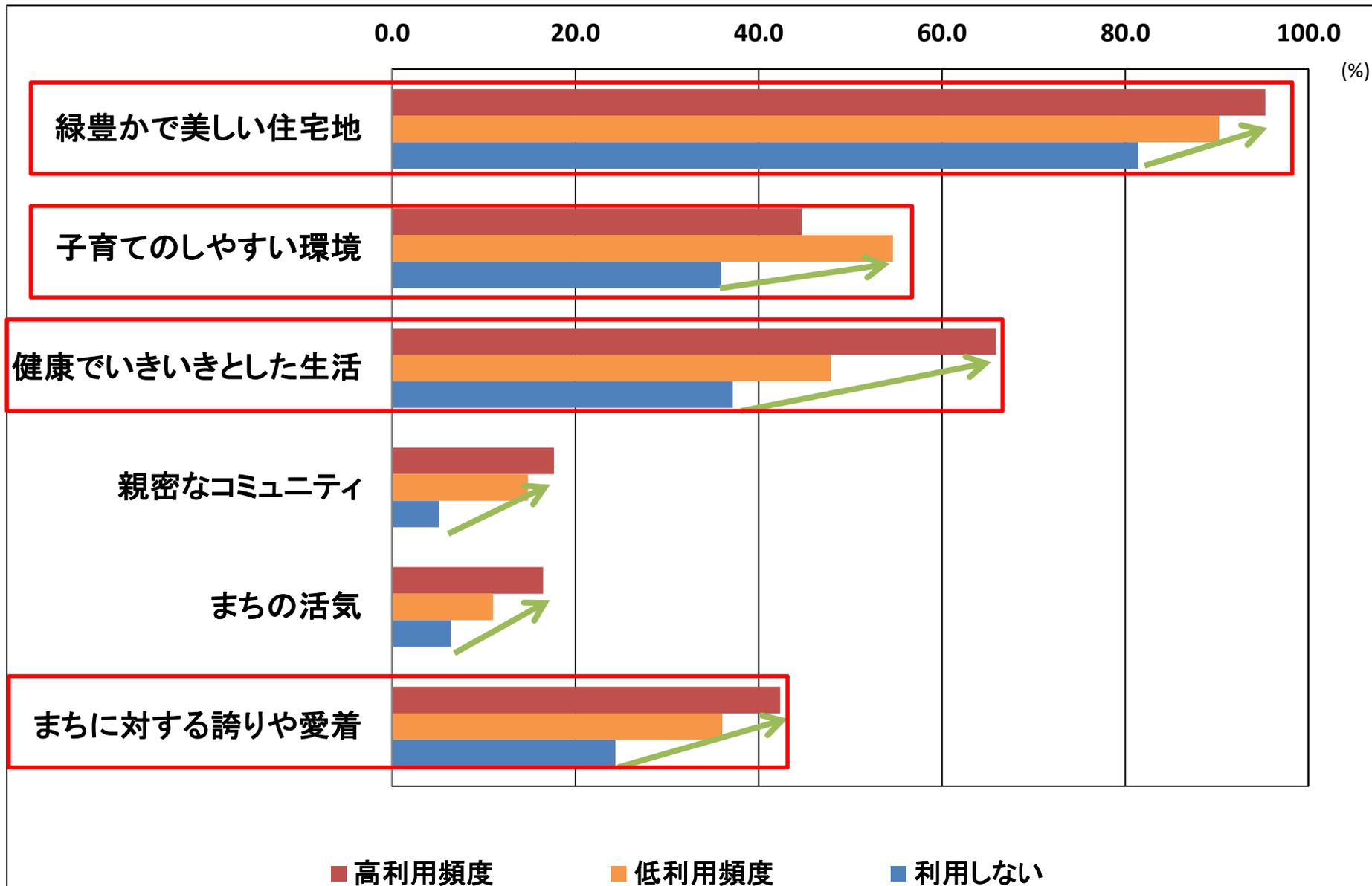
第3章 公園の魅力内容(現在の公園の利用頻度別比較)



第3章 公園が居住魅力に与える効果(現在の公園の利用頻度別比較)

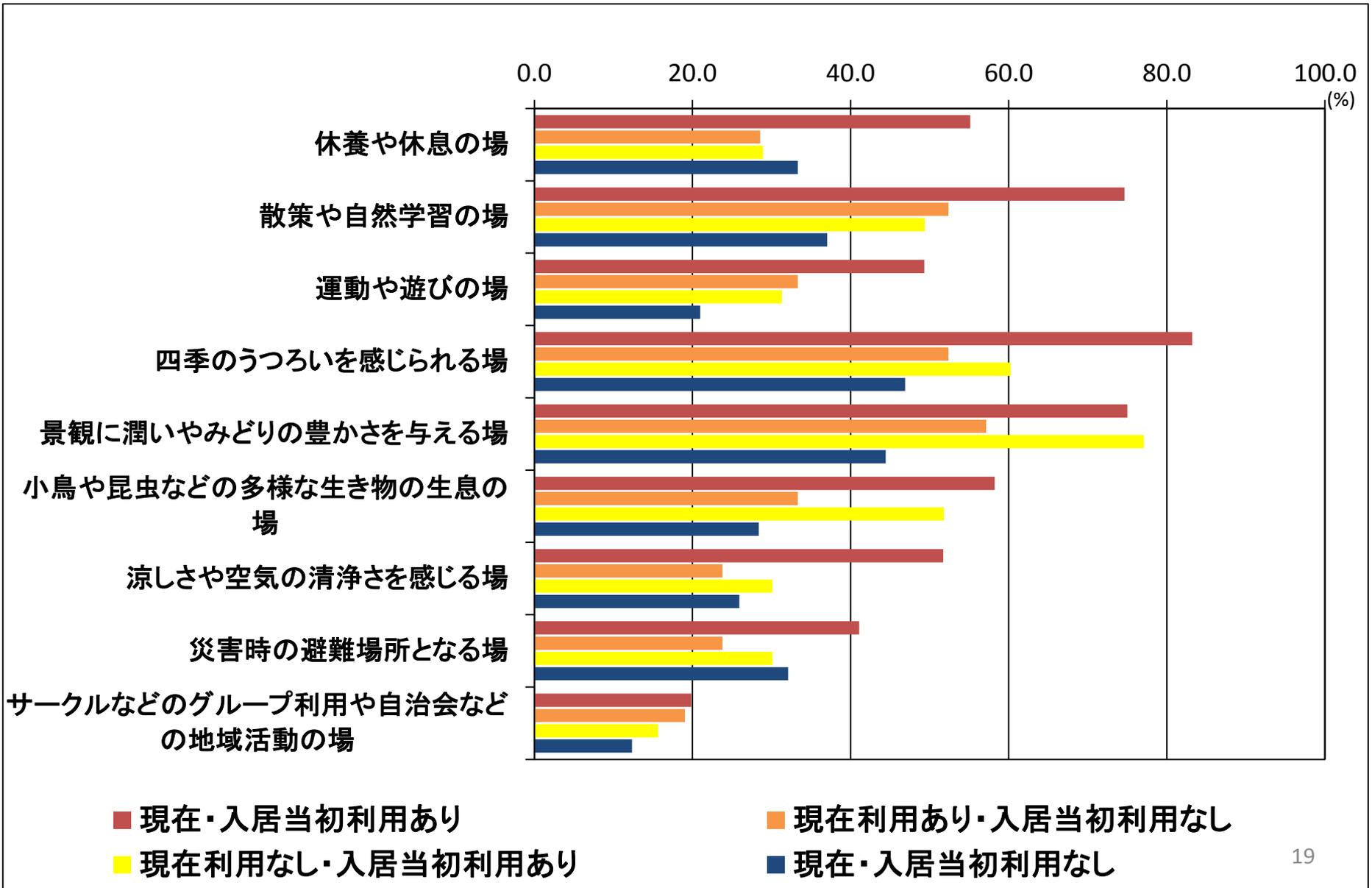


第3章 公園が居住魅力に与える効果(現在の公園の利用頻度別比較)



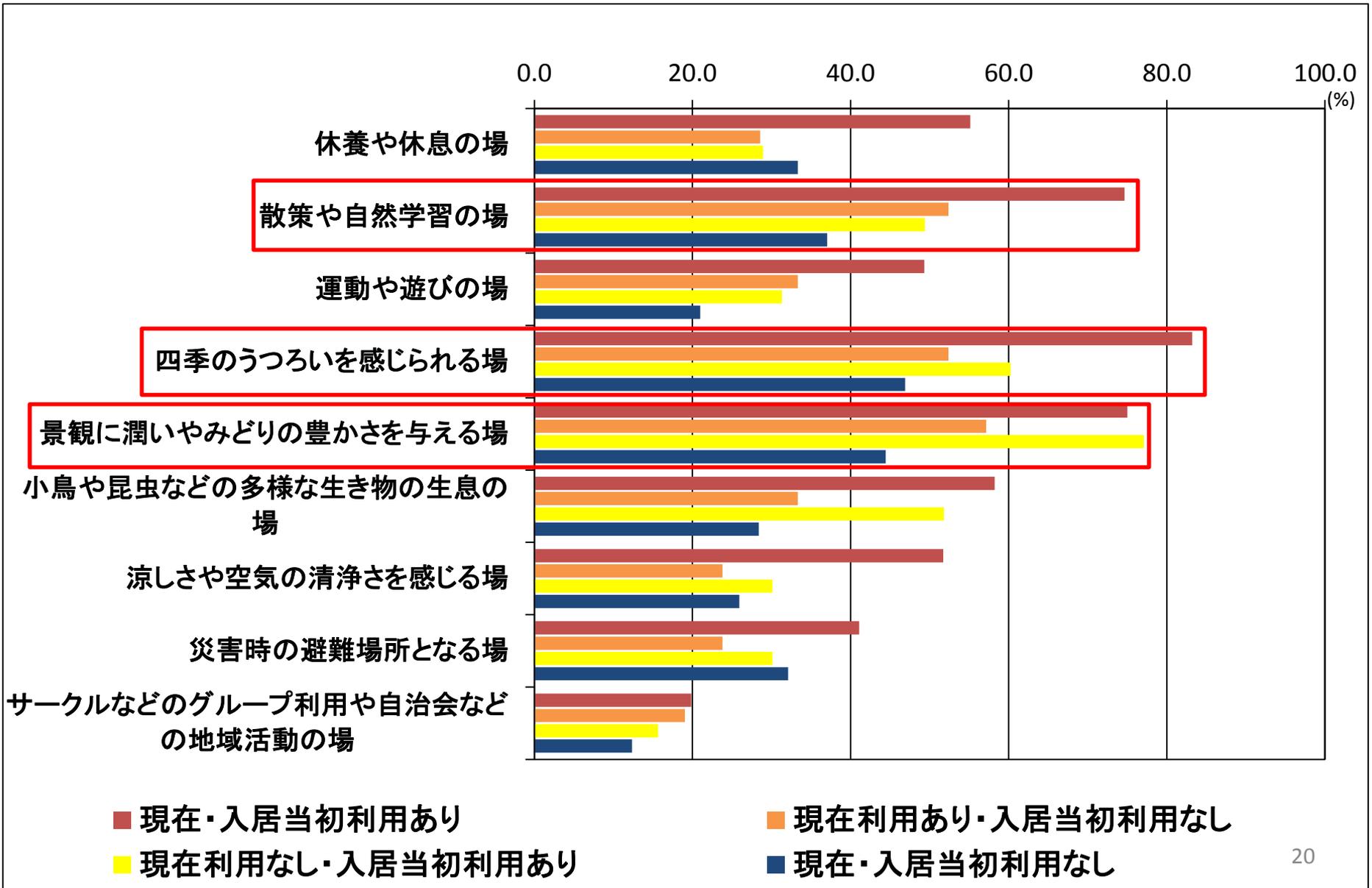
第3章 公園の魅力内容(入居当初から現在に至るまでの

利用経験別比較)

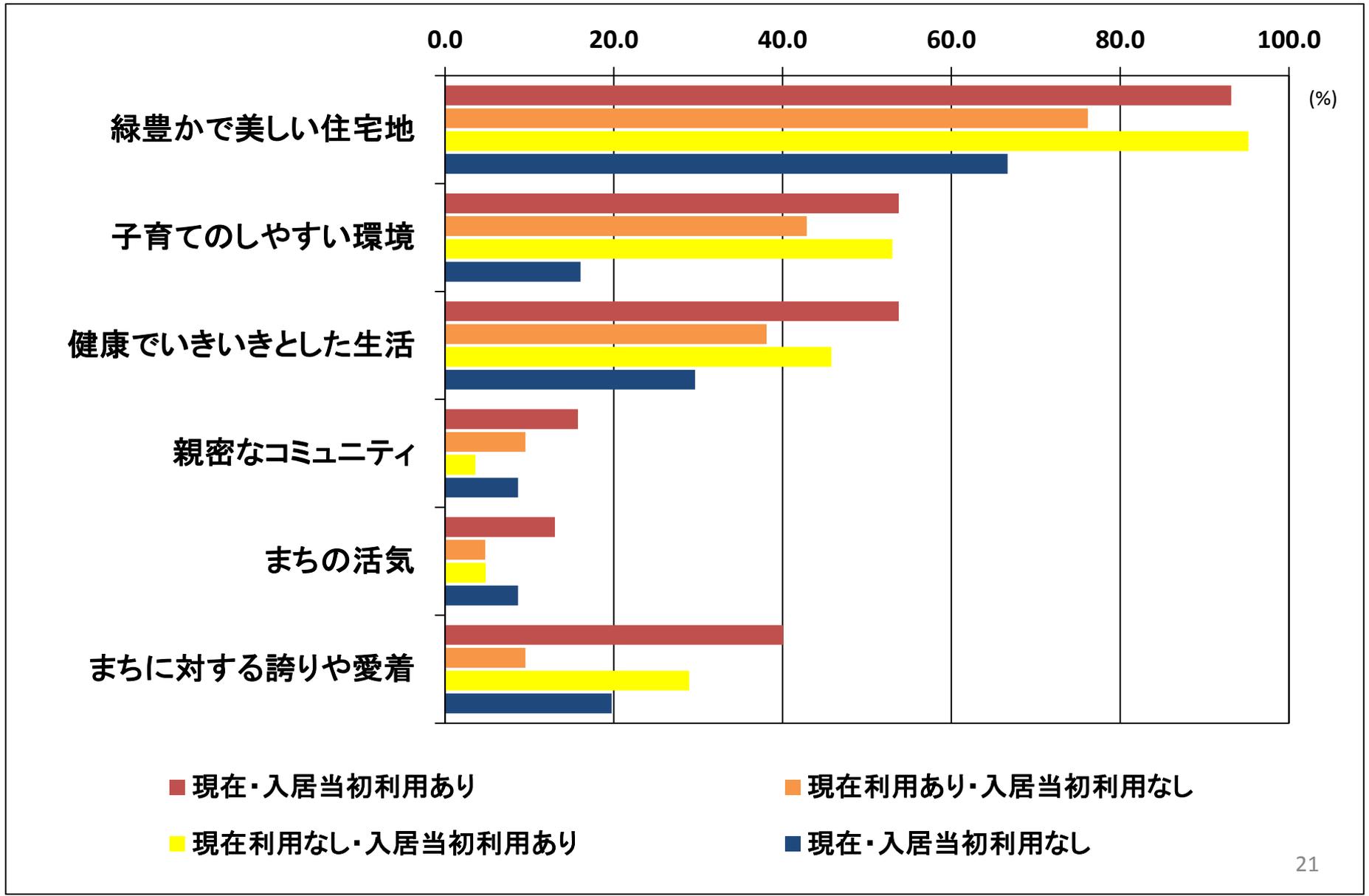


第3章 公園の魅力内容(入居当初から現在に至るまでの

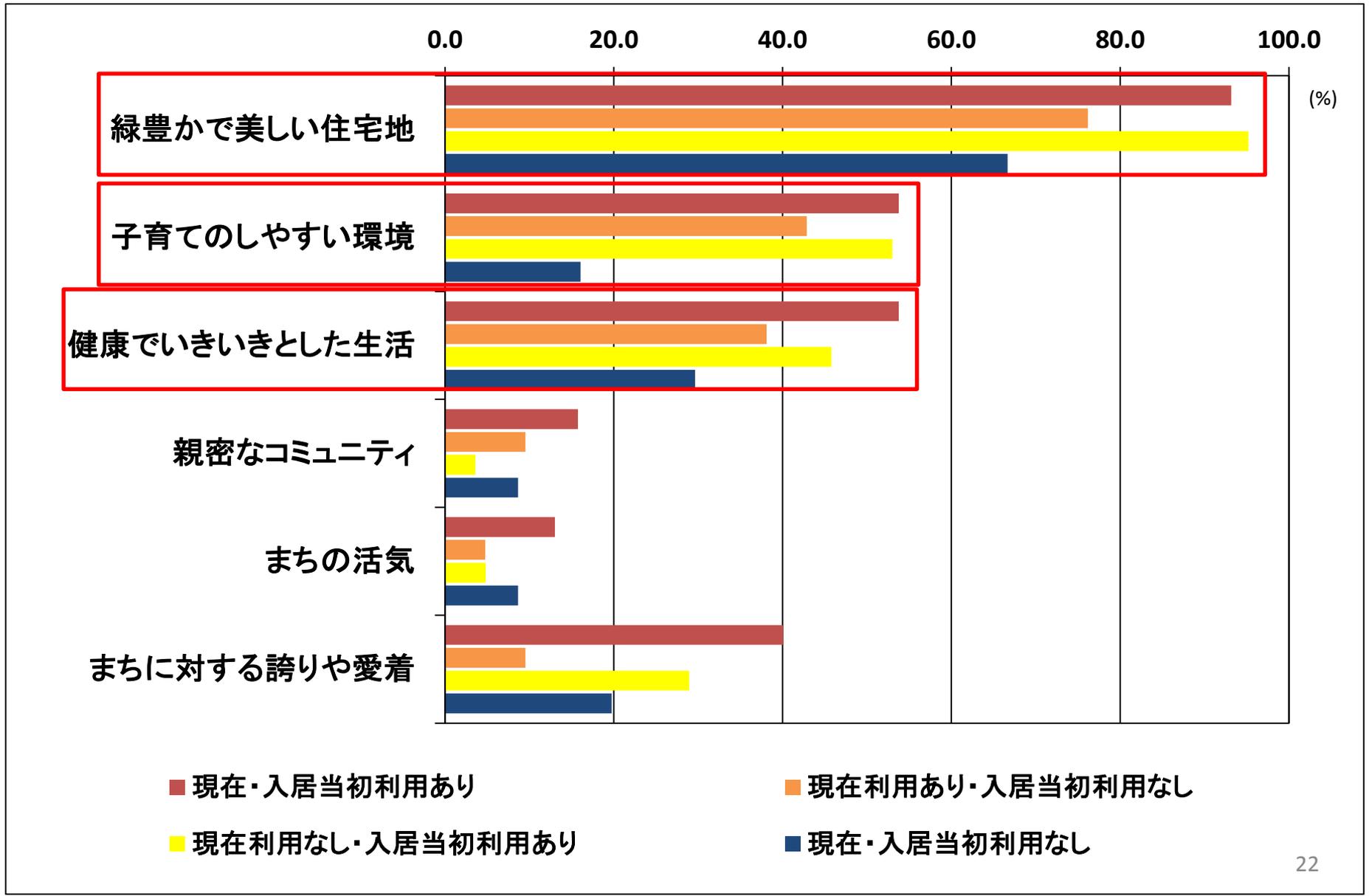
利用経験別比較)



第3章 公園が居住魅力に与える効果(入居当初から現在に至るまでの利用経験別比較)



第3章 公園が居住魅力に与える効果(入居当初から現在に至るまでの利用経験別比較)



第4章 まとめ

- 地域イベントへの参加は日常の公園利用を促進させる。
- 公園の存在がニュータウンの居住魅力を高めるといった効果を高く評価する傾向にある。
- 特にその効果はリピーターで高まる傾向にある。

地域イベントへの参加を通じて公園魅力の顕在化が図られる

- 過去の公園利用の経験や日常の公園利用を通じて、公園の存在が緑豊かで美しい住宅地の形成に留まらず、自らの健康増進の場、子育ての場、さらには、まちに対する誇りや愛着の醸成を高めていると評価する傾向にある。

日常的な公園の利用経験を通じて公園魅力の顕在化が図られる

地域イベントによって公園利用を促進させることにより、ニュータウンで充実した公園緑地を活かしたニュータウン再生の可能性を見出せたと言える。